



いのきちゃん

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

井の頭
吉祥寺
28号
2016年5・6月号

2016年(平成28年)5月1日

●編集・発行
いのきちゃん編集委員会
編集長 川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸 気付
電 話 0422-60-2211
FAX 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100周年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと1年

連載絵本 子狸ボン太の巻 その1

狸おぼさんと子どものボン太は、御殿山に巣穴を作り暮らしています。時々玉川上水にかかるほたる橋を渡り、西園横の貯木場で虫をつかまえ、ボン太も少しずつ生活の知恵を身につけてきました。そして「決して人間のそばに行つてはいけないう。」とお母さんにつも言われています。

絵せのうさこ 文 瀬能けい子

せのうさこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

井の頭自然文化園

●資料館特設展「カエル学にゅうもん」
人気を博した「カエル学にゅうもん」が帰ってきました。
カエルの秘密にゲゲッと迫ります

- 日時：2016年4月1日(金)～6月19日(日)
9時30分～16時30分
(資料館の閉館時間まで)
- 場所：動物園(本園) 資料館

●「しんかのふしぎ」スタンプラリー
いろいろないきものがいる不思議を動物園で考えてみませんか? 毎年恒例、春のスタンプラリーを開催します。

- 日程：2016年4月23日(土)～5月22日(日)
- ラリー用紙配布場所：動物園(本園) 正門先広場

●開園記念日
井の頭自然文化園は、1942年5月17日に開園しました。それを記念した催しを行います。

- 無料開園日：開園記念日の5月17日(火)は無料で入園いただけます。
- 開園記念日企画：5月21日・22日の2日間は、開園を記念して、様々な催しを行います。詳しくは、ホームページをご覧ください。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html>

井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】 次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 5月1日(日)、6月5日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 5月8日(日)、5月22日(日)、6月12日(日)、6月26日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 5月17日(火)、6月7日(火)
- ツリー☆マジック(第二公園) 5月15日(日)、6月11日(土)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html> に載せます。

井の頭かんさつ会

- 第133回「春の渡り鳥」 5月21日(土) 9:00～11:30
- 第134回「変形菌」 6月(日にち未定) 10:00～12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

1級級選安浩 の いのけん受験講座 答え合わせ

Q1. ① 22 ② 10 Q2. ① 8 ② 帝都

井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その9

アカゲザル と 久保田夕紀子さん



風貌こそニホンザルに似ていますが、アカゲザルはインドや中国に生息。体がひとまわり小さく、しっぽは倍の長さの25cmあります。

仔ザルは遊び好きで、走り回ったり、高いところから水場に飛び込んだり。大人は食べるか、寝るか、毛づくろいをするか。サル山には19頭が群れで暮らします。

ケンカにケガはつきものですが、「できる限り自然治癒させています。群れから離して治療すると、群れに戻したときに新参者になってしまう。そもそもケンカが弱い子ほどケガをするんですから」と飼育員の久保田夕紀子さん。

飼育の工夫はエサやりにも。野生のアカゲザルは一日の大半をエサ探しに費やしますが、動物園のサルはエサが十分に与えられるため、暇を持て余しがちです。そこで「エサの総量は毎日同じですが、回数や時間、与える順番などを日によって変えています。動物が身体的、精神的に満足して楽しく過ごせるような取り組みを『環境エンリッチメント』と言います」

サル山をぐるりと取り囲む桜は、花びらや枯葉を大量に落とし、「いくら掃除しても追いつかない」と久保田さんの悩みの種。秋にはその落ち葉にエサを隠して、サルがエサを探すように仕向けます。さらに5月ごろには毛虫も降ってきて、意外や意外、雑食のサルの好物なのだとか。これも、環境エンリッチメント?

小田原 潔 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

春の味覚

当園では毎日のはな子にキャベツを与えていますが、4月になると春キャベツが入荷されるようになります。昨年まではこの春キャベツ、はな子は気に入らなかったようでほとんど食べなかったのですが、今年は打って変わって残さず完食するようになりました。このように昨日まではまったく食べなかったものを食べるようになったり、それとは逆によく食べていたものを急に食べなくなったりと、はな子の好みは1日1日変化するのでそれに合わせて食事のメニューも変更しています。そんなはな子が今一番好きなのがハコベ等の野草です。この季節、園内のいたる所から沢山の野草が生えてきます。それを毎日飼育員が籠一杯に摘み集めて、はな子が消化しやすいように細かく切り分けて与えています。現在はこの軟らかい野草が一番のお気に入りのようです。(飼育展示係 久保田夕紀子)



井の頭公園の生き物たち その28 クロダハゼ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなか としあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。



最近名前が変わったハゼ

ハゼ科ヨシノボリ属の魚で、井の頭池の在来種です。つい最近までトウヨシノボリと呼ばれていました。“ヨシノボリ”とは葦(ヨシ)を登る魚という意味でしょう。底生生活をするハゼには左右の腹ビレが合着した吸盤があります。この魚は池底だけでなく水草にもしばしば吸い付いています。研究が進み、トウヨシノボリは複数種に分けるべきということになり、関東平野に分布していた種類はクロダハゼという名前になりました。“ヨシノボリ”が消えたのは残念ですが、この名前は、この魚がトウヨシノボリと同種とされる前に付いてい

水中のカイツブリ



4月12日、弁天池にモツゴのごく小さな仔魚が多数いるのを確認しました。かいぼり後に放流したものが繁殖したのです。間もなく井の頭池は在来の生き物で満たされ、カイツブリのカップルもさらに増え、ヒナが何羽も誕生することでしょう。池の水が澄んでいるので、ヒナたちも魚を捕る練習がしやすいそうです。2014年はカイツブリの楽園は7月までしか続きませんでした。外来魚をかなり減らせた今回は、楽園がずっと続くといひのですが。

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

た名前なのだそうです。

石の下などに産卵し、オスが卵を守ります。孵化した仔魚は普通はいったん海に下りますが、一生池で生活する陸封型もあります。井の頭池のクロダハゼを4匹、かつての西園プールに放したら、3年後には2百数十匹に増えていました。ひょうたん池の保護いけすでも繁殖し、数が増えました。

井の頭池のクロダハゼは近年大きく数を減らしました。オオクチバスなどの外来魚と下流域にしかいなかった同じハゼ科のヌマチチブが増えたのがおもな原因です。より大きく強いヌマチチブに隠れ場所を奪われ、オオクチバスに捕食される、ということが起きたようです。かいぼり25では外来魚を駆除し、捕れたヌマチチブは弁天池に移しました。ところが、かいぼり27の結果は意外なものでした。かいぼり25をしなかった弁天池ではクロダハゼがヌマチチブよりずっと多く獲れ、かいぼり25をした池ではその逆だったのです。自然はなかなか人間の予想通りにはなりません。かいぼり27ではヌマチチブも国内外来魚とされ、外来魚の駆除がより徹底して行われました。はたしてクロダハゼの数は回復するでしょうか。誰からも見えるコイがいなくなり、池が寂しくなったと言う人がいますが、池の中では魚たちのドラマが進行中です。それを想像できるようになれば、井の頭池は俄然面白くなります。



腹ビレが吸盤に

28 楽園ふたたび

「楽園はよみがえるか!」

カイツブリ通書

きれいな水に泳がせよう!

満水になる前にカイツブリが戻ってきました。3月17日には水面に垂れた枝に巣材を積み上げているカップルが早くも見られました。カップルになると、縄張り内をデートしたり一緒に飯の巣を作ったりして絆を深めます。しかし、かいぼり直後の池は食べ物十分ではありません。子育て用の巣を作り卵を産むのは、ヒナの餌となる水生昆虫や稚魚などが増えてからでしょう。かいぼり25後の2014年の場合、最初の産卵は4月半ばでした。

4月12日、弁天池にモツゴのごく小さな仔魚が多数いるのを確認しました。かいぼり後に放流したものが繁殖したのです。間もなく井の頭池は在来の生き物で満たされ、カイツブリのカップルもさらに増え、ヒナが何羽も誕生することでしょう。池の水が澄んでいるので、ヒナたちも魚を捕る練習がしやすいそうです。2014年はカイツブリの楽園は7月までしか続きませんでした。外来魚をかなり減らせた今回は、楽園がずっと続くといひのですが。

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。



写真 古賀 親宗 (こが もとりの)
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。



川井信良 かわしんすけ
70年代80年代「三鷹の井の頭公園」や「みたかきいたか」を発行。

(シーズン あべかずまさ・あべまこと)
(聞き手・写真 川井信良)

縁の下の力持ち。気持ちいいですよ。

5年前、メリノウールを使ったアウトドア用衣類（スマートウール）を販売する店を開いたのです。メリノウールはメリノ種の羊からとったウールですが、羊毛の中で一番細い毛なので、肌触りが良く肌に直接着ける衣類に適しているんです。今回は、かいぼりで長い時間冷たい水の中で作業する皆さんに、「保温力抜群のこの靴下を使ってください」と、文字通り「足下から支える」という応援でした。

吉祥寺でお店を開いてみて、町が元気であることが、とても大切だと分かりました。そんな中でハモニカ横丁朝市で知り合った井の頭かんさつ会のメンバーと仲良くなり、かいぼりの話を聞いたのです。これは是非とも応援したいと、井の頭かんさつ会と生態工房の皆さんに、当店自慢の（笑）靴下を贈ったのです。常々井の頭公園は吉祥寺にとって大切な公園だと思っていました。土日のかいぼりには参加できないこともあり、私たちのできる応援がしたくて靴下プレゼントになったわけです。スマートウールは

予定通り「かいぼり27」が終わり、桜の咲く前に井の頭池はきれいな水に満たされた。今回のかいぼりも、多くの市民がボランティアとして参加したが、お店も応援した。吉祥寺でアウトドア製品を販売している「シーズン」の阿部一晶さん（63歳）昌子さん（54歳）ご夫妻は、かいぼりの中心的な役割を担っているNPO法人生態工房と井の頭かんさつ会の皆さんにメリノウールの靴下をプレゼントした。

阿部一晶・阿部昌子（武蔵野市在住）

保温力抜群のこの靴下を使ってください

私と井の頭公園 その28

清らかな湧水が昔と今を脈々とつなぐ

去る3月、多くのボランティアの力が結集された「かいぼり27」が終わりました。池の水が抜かれ、あちろちに湧水がきらめくのが見られ、水質改善への希望が膨らみました。かつては池全体が澄んだ水に満ちていた井の頭池。今回は、昔の七井橋の新聞記事を見ながら、湧水に思いを馳せてみましょう。



▲ 昭和7（1932）年にコンクリート製擬木づくりの橋に造り替えられ、昭和28（1953）年の改修時に公募で命名された「七井橋」。平成4（1997）年に架け替えられて現在に至る。

◀ 昭和29（1954）年6月27日の毎日新聞に掲載された記事。（「懐かしの吉祥寺 昭和29年・40年」写真・土屋恂 / 編・安田知代 / ぶんしん出版）より



梅雨時の豪雨で、七井橋の橋ゲタが水中に隠れてしまふほど池の水が増えたという記事を投稿したのは、井の頭5丁目在住の土屋恂さん。昭和20年代末はまたゲタ履きの人が多かったのでしょう。タイトル「ゲタの音」と「橋ゲタ」の語呂合わせの粋な響きに、郷愁を誘われます。井の頭池の全体の水量は、約6万一千トン。池が澄みきっていた昔は、1日に1万トン以上の水が湧いていたと言われます。その湧水が減り始めたのは、昭和34（1959）年頃からで、昭和37（1962）年から4回、池が枯れる事態も起こりました。水位を保つために現在までに8本の井戸が掘られ、今は、ポンプで汲み上げた地下水約4千トンが毎日供給されています。とはいえ、昔の湧水の半分以下。しかも神田川に流れ出すスピードが緩やかになり、水を浄化する在来種の水生生物が激減して生態系のバランスが崩れてしまったため、水が濁った状態が続いてきたのです。井の頭池の水源となる地下水のかん養地域は西北方向約8・02kmだと言われますが、かつては農地や雑木林が広がっていた地域です。「三鷹市内の水田で例年より1・2週間遅れて田植えが始まった」という記事も、同年6月22日に土屋恂さんは投稿しています（懐かしの吉祥寺 昭和29年・40年）に掲載）。地下水を豊かに育む田んぼも、当時はまだ残っていたのです。その後も都市化は進み、地面に染み込む雨水量は激減し、その一方で水道水として汲み上げる水量は増え、結果、地下水位が下がって池の湧水も減るという連鎖が進んだのです。

▼「かいぼり27だより」を担当していたのは、このお二人。



充実の「かいぼり27だより」で臨場感たっぷり振り返ろう！

「かいぼり27」が3月に終わりました。池の水は桜が咲く頃にはすっかり満ち、水面に花色を美しく映してくれましたね。みなさんは、今回のかいぼりをどのようにご覧になったり参加されたりしたでしょうか。

振り返って経緯をたどってみるのにお勧めなのが、「井の頭恩賜公園100年実行委員会」のWEBサイトで随時更新されていた「かいぼり27だより」です。写真や図が豊富で、文章も読みやすく、現場のワクワク感がグッと伝わってきます。すでにファンという方も多いかもしれません。

担当されていたのは、東京都西部公園緑地事務所工事課の内山香さんと金田百合子さん。お忙しい中いていねいに残してください。また読んだことのない方は、「かいぼり27だより」で検索してみてくださいね。4月以降のモニタリングなどのお便りも、新スタートします！

井の頭公園の古い写真を集めています

◀昭和25年頃の井の頭池 写真提供：鈴木育男氏
2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を贈呈いたします。

募集
お問い合わせ ぶんしん出版
☎0422-60-2211 (担当：宮川)
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17



第8回

1級渡邊安浩のいのけん受験講座

今回は、鉄道に関する問題です。()内を数字または漢字で埋めて下さい。

Q1

甲武鉄道（現・JR中央線）が開通したのは、明治（ ① ）年で、吉祥寺に停車場ができたのは、その（ ② ）年後です。

Q2

井の頭線は、昭和（ ① ）年に（ ② ）電鉄株式会社（現・京王電鉄株式会社）により渋谷～井の頭公園間が開通し、翌年に吉祥寺駅までの全線が開通しました。

答えは裏面のインフォメーションのところだよ